

2026 年 9 月 30 日

三菱 UFJ 信託銀行株式会社

**大分県由布市および山形県米沢市における系統用蓄電所事業への参画について
～エネルギー・インフラ投資を通じてエネルギーの安定供給と持続可能な社会の実現に貢献～**

三菱 UFJ 信託銀行株式会社（取締役社長 ^{くぼた ひろし} 窪田 博、以下 三菱 UFJ 信託銀行）は、連結子会社である合同会社ジーアイアイ 2 を営業者とする匿名組合を通じ、大分県由布市および山形県米沢市において、オリックス株式会社（社長：^{たかはし ひでたけ} 高橋 英文、以下 オリックス）を含む共同投資家 3 社と出資する系統*1 用蓄電所「由布蓄電所」および「米沢蓄電所」の建設を開始しました。

本事業では、三菱 UFJ 信託銀行の 100% 子会社である株式会社グリーンインフラ・デベロップメントが、オリックスを含む共同投資家並びに同子会社と共に蓄電所の開発・運営に関する意思決定支援や事業管理を行うアセットマネジメントを担います。

「由布蓄電所」は 2028 年、「米沢蓄電所」は 2030 年の運転開始を予定しています。「由布蓄電所」は定格出力 70MW*2、定格容量 280MWh*3、「米沢蓄電所」は定格出力 75MW、定格容量 309MWh の大型蓄電池を電力系統に接続し、卸電力市場、需給調整市場、容量市場に参画します。電力の余剰時に充電し、不足時に放電することで、電力需給の安定化に貢献します。

三菱 UFJ 信託銀行は、コーポレートメッセージ「人をつなぐ。未来をつなぐ。」の下、社会やお客さまの大切な想いを未来につなぐ存在であり続けるため、さまざまな社会課題の解決を通じて持続可能な社会の実現に取り組んでいます。

本事業は、再生可能エネルギーの導入拡大に伴い重要性が高まる系統用蓄電所事業への資金供給を通じ、電力需給の安定化および再生可能エネルギーの有効活用を目指すものです。

将来的には、より広範なエネルギー・インフラ領域を対象とした事業参画、ファンド組成等信託機能の提供等を通じて、多様な投資家へ運用機会を提供するとともに、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

*1：発電所から電気を消費者に届けるための、変電、送電、配電までの一連のシステム。

*2：瞬間的な出力の大きさ。

*3：放電可能な電力量。本件の定格容量は、1 日 1 サイクルの充放電をした場合、由布蓄電所は一般家庭約 2.3 万世帯、米沢蓄電所は一般家庭約 2.8 万世帯の 1 日の使用量に相当。（出典：[環境省「家庭部門の CO2 排出実態統計調査-家庭でのエネルギー消費量について」](#)をもとに当社にて算出。）

以 上

■蓄電所の概要

1. 由布蓄電所

名 称	由布蓄電所
所 在 地	大分県由布市
定格出力	70MW
定格容量	280MWh
敷地面積	約 10,000 m ²
商業運転開始日	2028 年予定

2. 米沢蓄電所

名 称	米沢蓄電所
所 在 地	山形県米沢市
定格出力	75MW
定格容量	309MWh
敷地面積	約 10,000 m ²
商業運転開始日	2030 年予定